

年 組 番 氏名

【取り組みのねらい】

- ・資料(図表・調査)を読み取る。
- ・読み取った内容の背景にある問題点について考察する。
- ・読み取った内容に対して、自分の意見をまとめる力をつける。
- ・自分の意見に根拠をもたせるために、必要な資料について考える。

全都道府県で削減

14年産米の生産数量目標

農林水産省は29日、2014年産米の全都道府県別の生産数量目標を発表した。全国の目標を前年比26万トンの削減に引き下げたことを受け、全都道府県で前年の水準を割り込んだ。静岡は2・5%減の8万3000ト、減少率が最も大きいのは東京と鳥取の4・9%減、宮城と山口の4・8%減、青森と宮崎の4・7%減と続いた。全都道府県で作られた

農水省は米価の維持減り、14年産米の生産量は目標数量を上回る見通し。

農水省は米価の維持減り、14年産米の生産量は目標数量を上回る見通し。

都道府県	生産数量目標(ト)	生産数量目標の増減率(%)
北海道	554,140	▲3.3
青森県	247,000	▲4.7
岩手県	275,540	▲3.8
宮城県	362,630	▲4.8
秋田県	433,040	▲3.0
山形県	358,570	▲4.2
福島県	348,420	▲2.1
茨城県	341,550	▲2.1
栃木県	309,330	▲4.0
群馬県	77,120	▲2.5
埼玉県	152,680	▲2.5
千葉県	249,280	▲4.9
東京都	770	▲2.3
新潟県	535,640	▲1.8
富山県	192,340	▲2.0
石川県	126,400	▲2.3
福井県	128,130	▲3.9
山梨県	27,590	▲3.2
長野県	196,640	▲3.8
岐阜県	114,220	▲4.1
静岡県	83,800	▲2.5
愛知県	136,330	▲2.7
岐阜県	146,070	▲1.8
三重県	163,380	▲4.1
滋賀県	76,350	▲3.1
京都府	26,210	▲2.9
大阪府	181,930	▲3.2
兵庫県	41,840	▲2.8
奈良県	35,040	▲3.0
和歌山県	67,240	▲4.9
徳島県	92,570	▲3.7
香川県	160,190	▲3.5
愛媛県	130,130	▲3.2
高知県	110,820	▲4.8
福岡県	58,320	▲2.5
佐賀県	71,040	▲3.3
熊本県	74,490	▲2.2
大分県	50,050	▲3.3
宮崎県	184,380	▲3.6
鹿児島県	135,230	▲4.5
沖縄県	62,640	▲4.0
北海道	189,920	▲3.9
青森県	117,780	▲4.0
岩手県	94,470	▲4.7
宮城県	111,540	▲3.4
秋田県	111,540	▲3.4
山形県	2,930	▲3.6

目で見える経済

減り続けるコメ需要
政府、価格維持策を転換

家のコスト削減の取り組みが選れたこと批判もある。政府は18年度を境として減反の廃止を決定。農産物の価格維持策の転換を余儀なくされた。需要創出に向け、政府はパンや麺類に使う米粉用など主食以外の「新規需要米」の生産を奨励。12年の計画生産量は08年の18倍の約22万4千トに拡大したが全体の底上げ効果は限定的だった。

農産物におけるコメの地位も低下し続けている。90年に28%だった農業総産出額に占めるコメの割合は10年、19%に減少した。

●コメの需給動向

●農業総産出額に占めるコメの割合

●新規需要米の生産量推移

●コメの価格は年々減っている

両記事とも平成25年(2013年)11月30日(土曜日) 朝刊

【課題】① 図表から読み取れる特徴を箇条書きにして記す。

② 読み取った特徴の背景にある問題点を考える。

③ 読み取った内容に対する自分の意見をまとめる。

④ 自分の意見に根拠を持たせるために他に必要な資料を箇条書きにして記す。

コピーを生徒に渡す際、左記の指導アドバイスを消してからコピーしてください。

【学習の効果】

- ・図表を読み取る力が付く。
- ・(着目点)最大値、最小値、変化の大きいところ、他と比べて差が見られるところ)
- ・自分の意見に根拠を持たせるために資料を引用する技法が身に付く。

【指導上の注意、課題】

- ・図表を読み取る点のポイントについて予め他の資料を使いながら、説明しておく。
- ・さらに発展させて小論文を書かせる際に、資料を引用する場合は、「」でくくるなど引用箇所がよく分かるようにすること、「」を明記すること、
- ・「出典を明示」することを伝える。